

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
スミナガシ	タテハチョウ科	表は青緑の輝き 裏は「墨流し」 赤い口吻	X	X	X	本州以南



奥多摩 5月下旬



奥多摩 5月中旬 「墨流し」模様、赤い口吻が目立つ



高尾山 3号路 5月下旬



↑↑高尾山 頂上
テリトリーを張る♂ 8月中旬

成虫発生時期 (月)												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
食草 ○食樹								発生回数/年	越冬形態			
アワブキ、ヤマビワほか								2	蛹 (さなぎ)			

生田緑地にも昔はいたらしいのですが、どうやら消えてしまったようです。見たことがありません。奥多摩や高尾山ではミヤマカラスアゲハの発生と同じ5月中～下旬に山道で吸水している姿を目にしますが、数の多い蝶ではありません。

青緑に輝く羽の表もさることながら、名前の由来の裏の「墨流し」模様、それに加えて赤い口吻も印象的です。

それにしても「スミナガシ」とは粹な名前。サカハチチョウ、シータテハ、エルタテハといった類とはひと味違う命名者のセンスの良さが感じられます。



200802 1637 高尾山山頂 テリトリーを張る



200809 1355 新島々バスターミナル 足にとまる